

【部会名】 税務研究部会

【タイトル】 一泊研修会

【日時】 平成22年9月3日（金）～：4日（土）

【場所】 浜の湯旅館（上諏訪）

【演題】 「戦国時代の諏訪」

【講師】 小林純子氏  
（諏訪市教育委員会・学芸委員）

【概要】

諏訪社は西暦691年に、奈良の龍田の風神と信濃の国の諏波神と水内（みのち）神等を祀ったとされており、全国に約1万社存



在し、海に近い所にある場合が多いため、風を防ぐ、水を大切にするといった神とされている。

平安時代後期には、神宮が「諏訪氏」を名乗り武士化していったが、室町時代には上下社の対立により、下社は敗れ武田と甲斐に逃れ、その後に衰退した。

甲斐を統一した武田信虎は、諏訪氏最強の武将である諏訪頼満と戦いを繰り返した後和睦が成立し、境川で上社の宝鈴を鳴らして誓いをたて政略結婚もあり、両氏間は安定したという。

しかし、武田信玄は父信虎を排除、両氏間の関係が急転した。武田氏は幾度かの戦いののち、諏訪出兵により諏訪全郡が武田の領地となった。

信玄の支配手法は、諏訪湖漁業に課税をし、職人には知行を与え諸役免除の代償に、公用に対し労働力提供をさせるといった支配であった。

諏訪統一の歴史と信玄の強さの理由を教えていただいた、実り多い研修会であった。